



## プレスリリース

Unofficial Translation

## 厳禁

本報告書の内容は、2005年9月29日17:00(グリニッジ標準時)以前に、新聞、テレビ、ラジオ、電子メディアの各媒体に引用または要約してはならない。  
(ニューヨーク13:00、ジュネーブ19:00、デリー22:30、東京9月30日2:00)

UNCTAD/PRESS/PR/2005/034\*

2005年9月29日

## 途上国への流入額の増加により、世界の海外直接投資は上昇に転じる

世界の海外直接投資は、前年まで3年間続けて減少した後、2004年に僅かながら上昇に転じた。この回復は、おもに開発途上国への海外直接投資の増加によるものである。先進国への海外直接投資は、依然として減少傾向にある。国連貿易開発会議 (UNCTAD) のスパチャイ事務局長は、「2005年世界投資報告書：多国籍企業と研究開発の国際化」<sup>1</sup> (World Investment Report 2005: *Transnational Corporations and the Internationalization of R&D*) の内容を紹介しつつ、「様々な産業で競争が厳しくなるにつれ、企業は効率化への新たな方法をそれぞれ探っている」、と指摘した。今日公表された同報告書は、UNCTADによる多国籍企業の研究開発活動に関する調査を掲載している。

2004年の対内直接投資は全世界で6480億ドルに達し、前年に比べ2%の上昇となった(表1)。しかし、地域別に見ると対内直接投資の傾向には大きな違いが見られる。途上国への流入額は、前年に比べ40%増加し2330億ドルに及び、過去2番目に大きな額となった。一方で先進国への流入額は14%減少し、3800億ドルとなった。対内直接投資総額の36%が途上国に流入した事となる(図1)。増加額が最も大きかった10か国の内7か国は途上国もしくは移行国であり、逆に減少額が最も大きかった10か国は全て先進国であった(図2)。米国が前年に引き続き世界最大の海外直接投資受入国であり、続いて英国、中国の順となっている(図3)。

報告書作成の総責任者であるアン・ミルーは、「途上国への海外直接投資は今後も高い水準で維持されるであろう」、と予測する。多国籍企業はそれぞれの競争力を向上させるために、成長著しい新興国市場への進出を拡大すると共に、新たなコスト削減策を探っている。この動きは、研究開発のような知識集約型事業活動にまでも影響を及ぼすであろう (UNCTAD プレスリリース UNCTAD/PRESS/PR/2005/033 参照)。また、多くの一次産品価格の高騰は、資源が豊富な途上国へのさらなる直接投資を促すであろう、とミルーは語った。

途上国圏での対内直接投資の増加率は、アジア・オセアニア地域で46%と最も大きい。ラテンアメリカ及びカリブ諸国の対内直接投資も44%増と大きく上昇した。アフリカ向けの直接投資は前年とほぼ同水準であった。最貧国への海外直接投資は110億ドルに増加し過去最高となったも

\* お問い合わせ: Press Office, +41 22 917 5828, [unctadpress@unctad.org](mailto:unctadpress@unctad.org), [www.unctad.org/press](http://www.unctad.org/press); A. Miroux, +41 22 917 1167, [anne.miroux@unctad.org](mailto:anne.miroux@unctad.org); M. Fujita, +41 22 917 6217, [masataka.fujita@unctad.org](mailto:masataka.fujita@unctad.org).

の、全世界の対内直接投資の2%にも満たず、比較的低い水準にとどまっている。対内直接投資額が最も大きかった途上国は、順に中国、香港（中国）、ブラジル、メキシコ、シンガポールであった（地域別の海外直接投資の傾向については、UNCTAD プレスリリース UNCTAD/PRESS/PR/2005/35-38 を参照）。

報告書は、先進国での対内直接投資の実績が国により大きく異なった事を浮き彫りにしている。米国の対内直接投資は、前年比 62%増で 960 億ドルに達し、また、英国の対内直接投資も前年の 3 倍超の 780 億ドルに膨れ上がった。これらの国の対内直接投資増加の一因には、大規模な合併・買収の数が増えた事がある。オーストラリアの対内直接投資も、株式資本投資や合併・買収に牽引され過去最高の 430 億ドルへと大幅に増加した。

25 加盟国で形成される欧州連合では、2004 年に加盟した新加盟国と、旧加盟 15 개국 (EU15) との間に著しい違いが見られた。EU15 諸国の対内直接投資は 40%減少し、1998 年以来最低の水準となった。オランダ、デンマーク、ドイツなどの国々の対内直接投資の減少の一因としては、親会社による資本及び企業間貸付の回収が挙げられる。アイルランド、スペイン、フランスの対内直接投資は近年大幅に上昇してきたが、2004 年には大きく減少した。一方、新加盟国の対内直接投資の合計は、前年比で 70%増加し 200 億ドルに達した。この内の大部分はチェコ、ハンガリー、ポーランドへの直接投資が占めた。これらの国への主な投資企業は、オーストリア、オランダ、ドイツ、フランスなど EU15 諸国の企業であった。EU 全体の対内直接投資は 38%減少し 2160 億ドルとなった。

#### 増加傾向にある途上国からの海外直接投資

海外直接投資のほとんどは先進国からの投資である。対外直接投資の上位 3 개국 (米国、英国、ルクセンブルグ) の合計だけで、全体のほぼ半分を占めている (図 3)。しかし、いくつかの (特にアジア地域にある) 途上国も重要な投資国として頭角をあらわして来た。中国の対外直接投資のおもな原動力は、ラテンアメリカ及びアフリカの天然資源部門への投資案件が示すように、国内での資源需要が急増している事にある。また、鉄鋼業が途上国間の直接投資の頻繁な分野となっている。最近の例としては、タタグループ (インド) のバングラデッシュの製鉄所などへの 20 億ドル規模の投資、浦項総合製鉄 (韓国) のインドでの 84 億ドルに上る鉄鋼関連の投資の合意、上海宝钢集团公司 (中国) のブラジルでの合計 80 億ドルに上る製鉄所建設に関する現地企業 (アルセロール及びリオードセ社) との合意などが挙げられる。報告書は資源関連の海外直接投資のさらなる増加を予想し、アジア諸経済の急速な成長による需要拡大をその主な理由として挙げている。

途上国の企業はその企業活動を先進国にも広げつつある。その例としては、AMBEV (ブラジル) によるラバット(カナダ)の買収 (2004 年の国境を越えた買収額第 5 位)、それに联想 (レノボ) (中国) による IBM の PC 事業の買収などが挙げられる。これら一連の動きは、途上国の企業が今後益々先進国の企業の株式取得を積極化させていくことを示唆しているといえる。

しかしながら、海外資産別世界多国籍企業上位 100 社 (金融業を除く) の内、途上国の企業は 4 社だけ (この 4 社では、香港企業 Hutchison Whampoa が最高位) であった (UNCTAD プレスリリース UNCTAD/PRESS/PR/2005/039 参照)。海外資産ではゼネラル・エレクトリックが前年につづき世界最大の多国籍企業であり、次にボーダフォン (英国)、フォード(米国)と続いた (表 2)。多国籍企業上位 100 社は、平均で 39 개국に関連企業を有し、オランダと英国が海外拠点として最も好まれている。途上国では、ブラジルが最大の関連企業受入国となっている。

19 兆ドルに上る海外売上高を計上し、5700 万人の海外雇用を持つと推定される多々の多国籍企業 (表 1) の拡張は、国内・国際的な政策決定に変化をもたらしている、と報告書は指摘する。

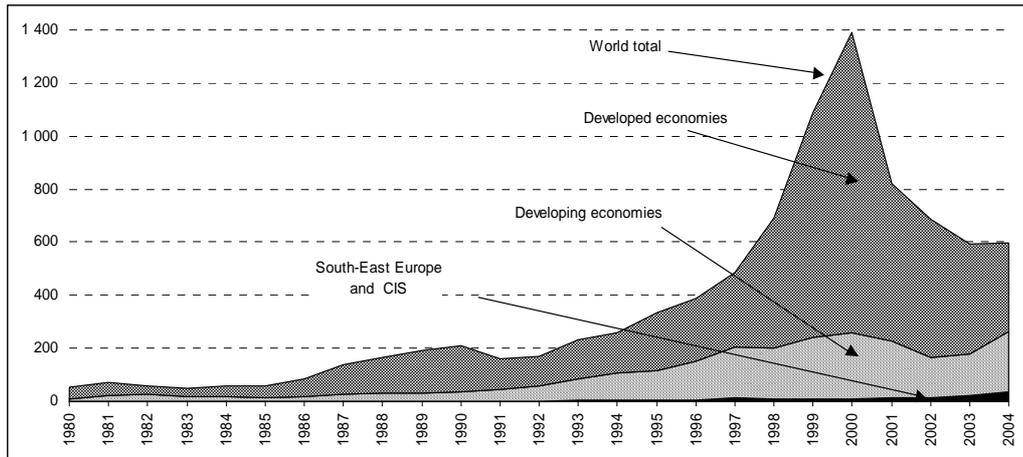
全体的な傾向としては、国内および地域経済をより開放し海外からの投資を歓迎する方向にある。しかし、一部のラテンアメリカ及びアフリカ諸国では、対内直接投資（特に資源関連の投資）からより恩恵を受けるために、これらの分野での規制を強化する動きも出てきている。

「世界投資報告書」および報告書内の統計はそれぞれ [www.unctad.org/wir](http://www.unctad.org/wir)、[www.unctad.org/fdistatistics](http://www.unctad.org/fdistatistics) で、海外直接投資および多国籍企業に関する UNCTAD の主な出版物一式—UNCTAD/UNCTC デジタルライブラリー—は <http://www.unctc.unctad.org> でご覧いただけます。

---

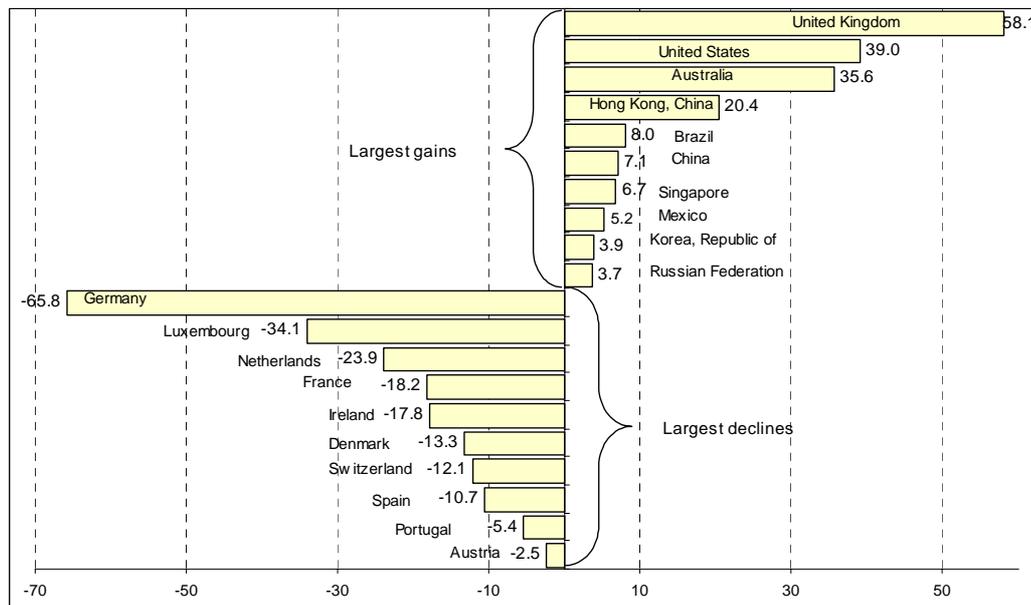
<sup>1</sup> 「2005 年世界投資報告書：多国籍企業と研究開発の国際化」（CD-ROM 付き）は、US\$75(開発途上国では特別価格の US\$30)で以下販売事務所より入手可能です。同報告か CD-ROM のどちらかを購入、或いは大量部数の見積もりを希望する場合は以下販売事務所にお問い合わせください。ヨーロッパ、アフリカ、西アジア：United Nations Publication/Sales Section, Palais des Nations, CH-1211 Geneva 10, Switzerland, fax: +41 22 917 0027, e-mail: [unpubli@un.org](mailto:unpubli@un.org) ; アメリカ、東アジア：United Nations Publications, Two UN Plaza, DC2-853, New York, NY 10017, USA, tel: +1 212 963 8302 or +1 800 253 9646, fax: +1 212 963 3489, e-mail: [publications@un.org](mailto:publications@un.org) . Internet: <http://www.un.org/publications>.

図 1. 世界合計および地域別対内直接投資流入額、1980-2004 年  
(単位：10 億ドル)



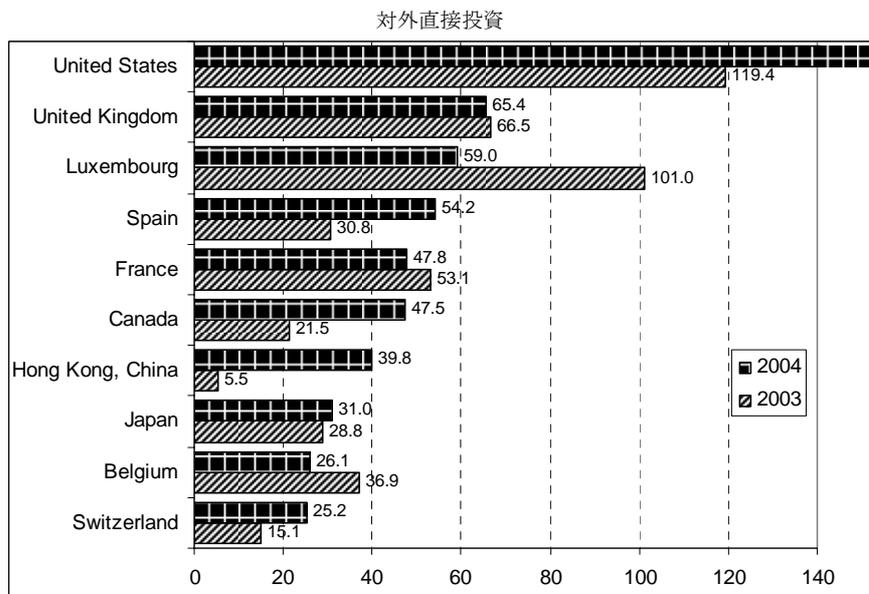
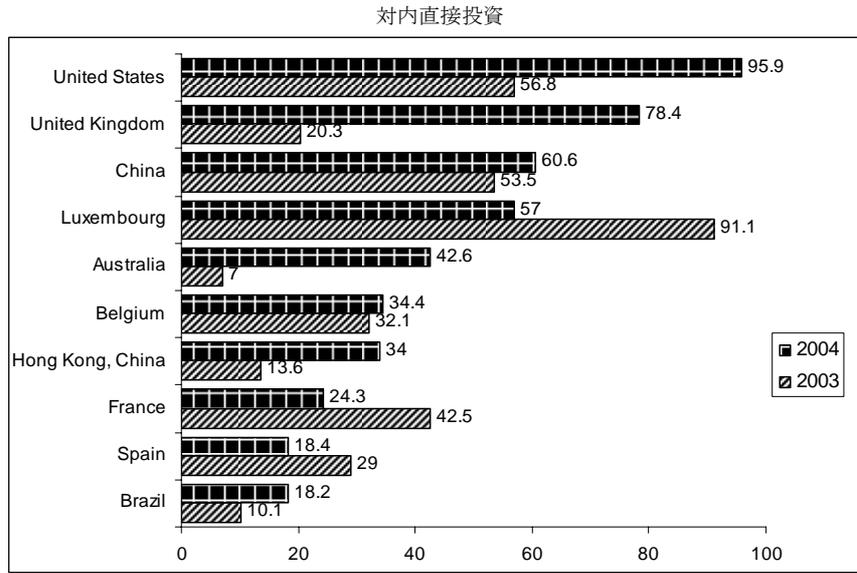
Source: UNCTAD, World Investment Report 2005

図 2. 対内直接投資の増加・減少の最も大きい国、2003-2004 年  
(単位：10 億ドル)



Source: World Investment Report 2005

図 3. 対内および対外直接投資額上位 10 か国、2003、2004 年  
(単位：10 億ドル)



Source: World Investment Report 2005

表 1. 海外直接投資と国際生産の指標—1990、2003、2004年  
(単位：10億ドル)

項目	1990	2003	2004
対内直接投資	208	633	648
対外直接投資	239	617	730
対内直接投資残高	1 769	7 987	8 902
対外直接投資残高	1 785	8 731	9 732
国境を越えたM&A	151	297	381
海外関連企業の売上高	5 727	16 963	18 677
海外関連企業の付加価値額	1 476	3 573	3 911
海外関連企業の総資産	5 937	32 186	36 008
海外関連企業の輸出額	1 498	3 073	3 690
海外関連企業の雇用 (単位：千人)	24 471	53 196	57 394
<b>参考</b>			
世界のGDP (時価)	22 610	36 327	40 671
世界の総固定資本形成	4 905	7 853	8 869
世界の輸出額	4 261	9 216	11 069

Source: UNCTAD, *World Investment Report 2005*.

表 2. 海外資産別世界多国籍企業上位 10 社、2003 年  
(単位：100万ドルおよび従業員数)

順位	企業	国	海外資産	海外売上	海外従業員数
1	ゼネラル・エレクトリック	米国	258 900	54 086	150 000
2	ボーダフォン	英国	243 839	50 070	47 473
3	フォード・モーター・カンパニー	米国	173 882	60 761	138 663
4	ゼネラルモーターズ	米国	15 4466	51 627	104 000
5	BP	英国	141 551	192 875	86 650
6	エクソンモービル	米国	116 853	166 926	53 748
7	ロイヤル・ダッチ・シェル	英国・オランダ	112 587	129 864	100 000
8	トヨタ自動車	日本	94 164	87 353	89 314
9	トータル	フランス	87 840	94 710	60 931
10	フランステレコム	フランス	81 370	21 574	88 626

Source: UNCTAD, *World Investment Report 2005*.